

アーバンデータチャレンジ東京 2013

実行委員会（第4回）

議事録（案）

日時：平成 25 年 7 月 23 日（火）18:00～20:00

場所：東京大学駒場第2キャンパス（Dw601）

【出席者】（敬称略、順不同）

東京大学：西沢・関本・瀬戸・長井・仙石、日本工営：伊藤、長大：増田、国際航業：山本・石井・和田、朝日航洋：嘉山、建設技術研究所：藤津、公共イノベーション：川島、東京都財務局：岡田、東京都建設局：増田、JIPDEC：郡司、NTT 空間情報：青島、OpenKnowledgeFoundationJapan：東、GeoRepublicJapan：関

（資料）

- 資料 1：アーバンデータチャレンジ東京 2013 2nd ステージワークショップ案内
- 資料 2：グループディスカッションの進め方
- 資料 3：UDCT2013 におけるデータ提供・ベストプラクティス掲載のためのシステム環境
- 資料 4：8 月以降の取組み（案）
- 資料 5：「アーバンデータチャレンジ東京 2013 応募要領」について

参考資料 1：前回議事録

参考資料 2：スケジュール表

参考資料 3：実行委員名簿

■2nd ステージワークショップの内容に関する意見交換

○8 月 1 日に実施する 2nd ステージワークショップの内容について意見交換を行った。
以下にその概要を示す。

【2nd ステージワークショップの申し込み状況】

- ・7/22 時点で Peatix 上の定員に達したため、今後は参加申し込みを締め切る。ただし、前回参加自治体等、自治体については別途枠を設け、参加いただけるようにする。

【Web での情報公開】

- ・Ustream での配信は、開会～第 I 部終了まで（13:15～14:50）、およびグループディスカッション成果の共有～閉会（17:20～18:20）を対象とする。（第 II 部：グループ

ディスカッション) は配信を行わない

- ・第Ⅰ部のプレゼン資料は当日の配布資料、また後日 Web 上で公開するものとする。第Ⅱ部のプレゼン資料は配布資料とはしないが、後日 Web 上で公開するものとして調整する。

【グループディスカッションの進め方】

- ・2nd ステージワークショップでは、前回と異なりテーマ（人口、まちづくり 等）毎にグループを分ける形を取るため、グループの分け方は過去の事例から下記のような方法が挙げられるが、実行委員が当日の状況から適宜移動することで調整を図る。

<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関連のある自治体を各グループに配置する。 ⇒自治体に関連するテーマが重複することがあり、均一に配置することが困難 ・参加申し込み時、あるいは当日、興味のあるテーマを予め収集する。 ⇒申し込み開始時にはテーマが確定していなかったこと、また当日テーマを収集に振り分けることは困難 ・グループディスカッション開始時の状況、参加者を見た上で振り分ける。 ⇒ファシリテーター、記録係以外の実行委員が参加状況を見て移動 ⇒グループの分散を、第Ⅱ部の序盤に行うことも可能

- ・テーマおよび事例紹介の変更について協議し、それに伴い実行委員の役割を変更し、下記の通りとした。（網掛け：変更箇所）

グループ（課題）	ファシリテーター	記録	【参考】事例紹介
人口	東	仲宗根（東大）	OKFJ 東
まちづくり	大伴	増田（長大）	㈱ゼンリンデータコム 足立龍太郎
インフラ	和田	川島（M2M）	東大生研准教授 長井宏平
防犯	石井	檜山	東大 CSIS 助教 雨宮護
防災	西沢	濱里	東大 CSIS 特任教授 西沢明
交通	嘉山	郡司	㈱環境情報 小美野智紀
農業	高橋	増田（東京都）	農業環境技術研究所 岩崎亘典
教育	関	青島	NPO 伊能社中 仙石裕明
観光	藤津	片柳（日本工営）	OKFJ 藤村

【データ提供・ベストプラクティス掲載】

- ・データ提供・ベストプラクティス掲載のためのポータルとして、CKAN と WebGIS を用いたシステムを東大にて構築中である。
- ・データ提供に当っては、UDCT 独自の規約や、CC の利用等が考えられ、UDCT 独自の規約を策定することが今年度に限らず、今後の運用においても望ましいが、コンテストまでに目的や利用にあたっての責任等が明瞭となる規約の策定は難しいのではないかと。
- ・よって、本イベント限りの規約のあり方が重要であり、「イベントのためだけに（イベント限定で）用いる」ことを前提としてデータ提供元との調整を図る。
- ・自治体等で既にオープンにされているものは、CKAN 内にデータを登録するよりも、自治体が提供しているサイトへのリンクを登録する（紹介する）形が、利用規約がサイト上に記載されておりよいのではないかと。（例えば、<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/10763/014761.html>）
- ・自治体のデータのみでなく、民間データについても収集したい。その場合、民間の立場からは、依頼を受けての提供であれば企業としても調整がしやすい。ただし、商用利用についての許可は現実的ではないため、商用利用については個別相談とする旨を、データカタログ上に記載することが必要と考えられる。
- ・8月1日までに、ベストプラクティスに関する事例報告（国内、国外問わず）を実行委員から収集する。1名あたり平均2つを目標とし、情報は GoogleDocs 上で集約する。
- ・事例としては、例えば東京アメッシュなどが候補として考えられるのではないかと。

■ 8月以降の取り組みに関する意見交換

○ 8月以降の取り組みについて意見交換を行った。以下にその概要を示す。

【8月以降の取り組み概要】

- ・8月以降の取り組みにおける主要プログラムとしては、2nd ステージワークショップ終了後にデータ収集、10月3日に3rd イベント、11月16日にG空間 EXPOがある。
- ・G空間 EXPO では、会場、時間の関係から、グループディスカッションやハッカソンイベントは困難であるため、進捗報告会のようなイベントを予定している。

【提供開始・エディットソンの応募要領】

- ・応募内容に適用するライセンスについては、今後の検討課題とする。
- ・応募要領の補足として、自治体にも広く公表することや、今後連携の可能性があること（ビジネスとして）を記載すると、参加者のモチベーションも上がるのではないかと。

- ・アイデア、データ、アプリ、といった部門毎を、横並びで評価することは困難ではないか。評価、審査の基準は明確にする必要がある。
- ・審査の基準として、応募要領（案）にある新規性、有用性、信頼性の他に、「持続可能性」、「実現可能性」といった基準も考えられる。別途実施する LOD チャレンジとの意見交換も参考として、検討する。
- ・評価、審査について、自治体にどのように関わっていただくかが重要であり、自治体の観点からは、「導入・運用コスト」という基準を重視する傾向があるのではないかな。
- ・応募要領として、「未発表のものに限る」という記述が必要ではないか。
- ・2nd ステージワークショップのグループディスカッションでは、ファシリテーターは課題出しに限らず、次につながる（審査時に評価しやすい軸やポイントを導く）ような誘導も必要ではないか。

■その他

- 次回は 8 月 21 日（水）18～20 時を予定する。

以上